



学校だより

川越市立山田中学校

令和3年5月11日 発行

「一つずつ 確実に 自分のものに」

校長 大澤由美子

新年度がスタートして1ヶ月が経ちました。どの学年の生徒も、新たな集団で落ち着いた学校生活を送っています。

さて、本校では「ラジオ体操」に力を入れ、年間を通して取り組んでいます。体育祭が近づき、自慢のラジオ体操にも磨きがかかってきました。本校の課題であった新体力テストの柔軟性や、体力向上に効果があるのではないかと取り組み始めてから年数を重ね、確実に成果をあげています。2年前からは山田小学校とも連携して、より高いところを目指しています。また、現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中断していますが、地域での活躍の場をいただいたり、川越市のイベントで本校代表生徒がラジオ体操を披露する機会をいただいたりと、本校が誇る活動の一つになっています。また、コロナ禍で体力低下が心配されていますが、その他の体力向上の取組も含めて、毎日カップ「中学校体力づくり」コンテスト（毎日新聞社主催、文部科学省・スポーツ庁等後援）の優良賞を2年連続で受賞しました。

山田中学校のラジオ体操の素晴らしさは、集団として揃った動きが見事であることと、一人一人の動きがしっかりしていることにあります。ラジオ体操の一つ一つの運動目的を理解した上での正しい動きを目指して、生徒達が本気で取り組んできた成果がそこにあります。自分のものとして身に付けた力が、はっきりと見える出来ばえです。ただ漫然と行うのではなく、目指すところを明確に持ち、確実に理解するまで粘り強く取り組み、より良いものにするという高い意識のもとで積み重ねてきたからこそ到達できたものだと思います。

学習も同じです。一つずつ確実にわかるまで粘り強く取り組むことが大切です。「よくわからないけれど、とりあえずこなした」ではなく、「これは、こういうことだ」「わかった」「できた」という手応えのあるものを一つずつ増やしていくことが大事なのだと思います。それが、自分のものにするということです。問題を解いてみて、解けたら次へ。解けなかったらわかるまで復習する姿勢が学力向上につながります。20問解く計画だったのに、結果として、できたのは10問だったとしても、確実にできた10問は「自分のもの」。力となる10問です。よくわからないけれど、とりあえず終えた20問より、ずっと価値があります。そして、わかるまでじっくり取り組むには、それなりに時間が必要です。自ずと、帰宅後の時間の使い方も変わるはずです。

校長室の前に、全校ラジオ体操の大きな写真を掲示しています。また、体力づくりコンテストのカップと賞状は2階の玄関に飾ってあります。ご来校の際には、ぜひご覧ください。余談ですが、生徒達の素晴らしいラジオ体操に負けないようにと、私もテレビ体操を毎日録画して、それを見ながら体操しています。「神5」には入れなくても、「神9」に枠が広がれば入れるくらいにと欲張りな願望を抱きつつ、健康維持も兼ねて体を動かしています。